

討 論

討論とは、表決の前に賛成か反対かの自己の意見を表明することです。(発言順に掲載)

議案第 74 号 財産の処分について

可決 (賛成8、反対6)

評価の高い絵画を所蔵しながら、鑑賞の機会を設けないなど考えられない。加西市は、播磨国風土記関連の数々のイベントで、文化の薫り高い市と評価をいただき、北条鉄道の駅に絵画の展示もしている。絵画の売却などせず、市制 50 周年を迎えるに際し、市民の皆さんに鑑賞していただく場を設けてはどうか。

反対



黒田秀一 議員



長田謙一 議員

賛成

作品は保管しているだけでは宝の持ち腐れであり、人の目に触れてこそ価値がある。オークションに出品し、より多くの方々の目に届くことを希望する。また、保管状態が悪ければその価値も下がってしまうため、今後、所蔵作品の管理をしっかりと行い、展示をローテーションさせるなど、ぜひ市民の目を楽しませていただきたい。

芸術・文化の薫り高い市民生活を創出すると総合計画で打ち出している以上、所蔵絵画について詳細な調査がないまま「タジカラ男」1点のみ競売にかけるのは、審議として拙速に過ぎる。また、加西市の文化政策の一貫性と継続性にかかわる重要な事柄でもあるため、継続審査とすべきだ。

反対



深田真史 議員

評価の高まっている作品をオークションにかけて海外に散逸させるというのは、自治体の役割としてあってはならない。また、美術館等に保管の協力を求める努力はまだ不十分であり、寄託を含めた議論が必要ではなかったか。継続審査ができないとなれば、やはり反対せざるを得ない。

反対



井上芳弘 議員

加西市を愛し誇りに思っしてほしいと声高に叫んでいるのに、その宝物をみずから喪失しようとしている。住民をふやす能力もなく、おまけに芸術文化価値に暗い加西市が、財政難で絵画を売りに出したと吹聴されないように、議案は取り下げるほうが賢明である。専門家から管理方法の教を請うことめせず、寄託の動きも十分でないまま、オークションありきの提案は言語道断である。

反対



植田通孝 議員



中右憲利 議員

賛成

購入時と今では、美術館構想もなくなり目指す方向が違ってきている。倉庫に眠らせるのでは意味がない。この絵の値打ちがわかる人が所有できるようにすべき。加西市が所有する他の絵画も、展示等の用途が考えられるものを除いて売却できるものは順次売却し、新しい活躍の場をつくるとともに、その収益を今後の新しい芸術振興事業の財源とすべきである。



森元清蔵 議員

賛成

作品を劣化させず、絵の価値を本当に理解できる方に広く見てもらうことが重要であり、加西市での管理が限界にきている今、オークションは賢明な判断である。加西市が所蔵する残り 290 点の作品についても、市民が鑑賞しながら文化的な水準を高めていけるよう、利用方法について検討していかなければならない。

作品の価値を生かすためには、過去の経緯や絵画に精通する参考人を交えて議論し、執行者側と議会が一体となって、真の価値がわかる寄託先を探すことこそが最良の策である。

評価の高い絵画を手放すことをはじめ、美術品の保管方法、文化行政との不整合性には疑問が残り、売却とするにはまだまだ審議が不十分である。

反対



丸岡弘満 議員